

地域情報誌
2018年5月
(No36)

DEすかね

〈編集・発行〉生きがいのある須金をつくる会

須金地区小学校・市民合同大運動会開催～！！



(開会式の様子)



(今年の須金小町はワールドワイド)



(感動の一輪車演技)



(恒例の縄緋い競争)

最高に晴れた気持ちのいいお天気のもと、今年も須金地区小学校・市民合同大運動会が開催されました。今年から5月の開催、そして市民部団は2部団での対抗戦となりましたが、例年通りの盛り上がりを見せ、小学生の大きな歓声と大人たちの笑顔に包まれながら、お昼過ぎには全ての競技が終了。押し寄せる高齢化や人口減少、少子化のために年々参加する人も少なくなっていて、選手の確保もなかなか難しくなっている気はしますが、それでもこうやって小学生も先生も親も、そして地域の人たちも一緒になって作り上げる、この温かい運動会にはとても大きな意味があるんじゃないか、そして時代に合わせて、柔軟に対応しながら、この素敵な運動会がいつまでも続くといいなあ、としみじみ思った1日でした。(須田)

人物紹介

日下部 篤

(くさかべ あつし) さん

昨シーズンから福田フルーツパークで働いている日下部さん。1月から下市に転入されたので、お話を聞いてきました。



(写真：福田フルーツパークにて)

●出身について

生れも育ちも千葉県です。実家はトマト農家です。



●趣味は？

小学校から大学までずっとサッカーをしていました。高1の時にJリーグが開幕して、すごく盛り上がっていたので自分もプロを目指して頑張っていました。

大学で怪我をして本気で出来なくなりましたが、仕事をしてからもサッカーチームに所属したり、指導者の様な事もしていました。

●どうして須金に？

いろいろあって、家を飛び出し取りあえず西へ向かっていました。広島までたどり着いた時に農業の求人情報サイトをみて、こちらにお世話になる事になりました。

ぶどうが好きだったし、おじもぶどう農家だったので、なにかピンと来るものがあったのかもしれない。

●須金の印象はどうですか？

寒いっす。思った以上に。もちろんとてもいい所ですよ。

●須金の皆さんに一言

よろしく願います！としか言えないですが・・・

若い力としてこれからが期待されます。子供たちもサッカー教えてもらえるといいですね。これからは、出会う事も多くなると思うので、皆さんで声掛け・サポートをお願いします。

(インタビュー 三牧 清隆)

新職員の紹介



皆さんこんにちは。4月から配属になりました原田博之（はらだひろゆき）といたします。

これまでは熊毛総合支所地域政策課(総務のお仕事)と保険年金課（健康保険）で仕事してきました。

音楽とサーフィンが大好きな32歳です。

まだまだ市民センターの業務に慣れず、皆様の優しさに助けられてばかりの日々です。一日でも早くテキパキ動ける職員になれるよう、日々精進してまいります。

公民館文庫新刊入荷のお知らせ

公民館文庫に新しい書籍
が入りました。

皆様のご利用をお待ち
しています。 随時、
誌面でも内容をご紹介し
て行きますね。



図書名	作者
蒼路の旅人	上橋 菜穂子
天と地の守り人 第一部 ロタ王国編	上橋 菜穂子
天と地の守り人 第二部 カンバル王国編	上橋 菜穂子
天と地の守り人 第三部 新ヨゴ皇国編	上橋 菜穂子
いちばん身近な憲法・人権の話 (池上彰さんと学ぶ12歳からの政治)	学研プラス、池上 彰
日本への遺言	豊重 哲郎
未来を変えた島の学校	山内 道雄
それでもこの世は悪くなかった	佐藤 愛子
キャンプで子育て GUIDE for FAMILY CAMP	監修：スノーピーク
自分って、なに？(こども哲学)	オスカー・ブルニフィエ
いっしょにいきて、なに？(こども哲学)	オスカー・ブルニフィエ
君の臍臓をたべたい (文庫)	住野 よる
フィット・フォー・ライフ 健康長寿には「不滅の原則」があった！	ハーヴィ・ダイヤモンド、 マリリン・ダイヤモンド
見てる、知ってる、考えてる	中島 芭旺
ポートランド 世界で一番住みたい街をつくる	山崎 満広
知ってはいけない 隠された日本支配の構造	矢部 宏治
山奥の農村で男女6人マンガ描いています	矢尾 いっちょ
満願 (新潮文庫)	米澤 穂信
三四郎はそれから門を出た (ポプラ文庫)	三浦 しをん
祈りの幕が下りる時(講談社文庫)	東野 圭吾

須金地区主な行事予定

(6～7月)

6月

- 6月 3日 (日) 小学校参観日/プール清掃
6月 6日 (水) ～7日 (木) 民泊受入
(関東学院中学校)
6月 8日 (金) 高齢者福祉のつどい
やまびこ号
6月 10日 (日) それーねの日
6月 11日 (月) コミュニティ理事会
6月 15日 (金) ～23日 (土) ※17日休
ほたるのすがね
6月 17日 (日) 北部球技大会
6月 23日 (土) やまびこ号

7月

- 7月 2日 (月) 地域参観日
7月 8日 (日) それーねの日
7月 9日 (月) コミュニティ理事会
7月 14日 (土) ～16日 (月) 田舎の学校
7月 20日 (金) 小学校終業式

DEすがね掲示板

4月から「須金農村環境改善センター」は「須金市民センター」に名称が変わりました。

※DE すがね無料メール配信

メールでもこの情報誌は読めます！申し込み方法はdesugane@gmail.comへ配信希望と書いたメールをするだけ。励ましや感想もこのメールアドレスで受け付けています。

須金で育って、いま全国でがんばっている皆さんの元へ届けましょう！



特別連載 須金歴史探訪

須金の生い立ち (9) 幕末

文 高橋 勝己

江戸時代における須万、金峰の人々の生活はとてつもないものでした。年貢の取り立ても厳しく、水害、台風、疫病、大火などの影響もあり、生活は困窮を極めました。幕府の封建制度に対する不満は藩士の下級武士にまで及び、ついに長州藩は1864年池田屋事件をきっかけに京都に攻め込みましたが、薩摩、会津両藩の協力によって破れます。(禁門の変、蛤御門の変)このとき、朝敵となった長州藩は幕府の征討(第一次長州征討)を受けます。

長州藩はその後、高杉晋作、桂小五郎らが中心となって、尊皇攘夷から、倒幕に考えを変えていきました。薩摩藩の西郷隆盛らも攘夷を改め、イギリスに接近していきます。幕府は長州のこの動きを察知し、1865年第二次長州征討を決定しますが、薩摩藩は土佐の坂本竜馬らの仲介により、薩長同盟を結び幕府の出兵命令に応じませんでした。農民、町民を加えた騎兵隊を動員した長州藩は各地で幕府軍を打ち破るのでした。

この2回の戦に参加した農兵の一人、野谷の藤井代二郎は当時の状況をこのように語ったそうです。「第一次長州征討の時、大阪に上がったところが長州人だということでどこのはたごや(旅館)でも泊めてくれなかったので困りぬいた。第二回の戦争がはじまってからまた上阪したところがどこのはたごやもみんな長州様ご用という高張提灯がかかげられてある大したものだった」

(岡山慶之進談)

(次回につづく)

編集後記

新編集委員になりました！編集委員ですが、実は本を全然読みません。市民センター文庫の購入も私の仕事ですが、何を買ったらよいやら。。。語彙力もアップさせるため、今年度は読書に挑戦してみたい。そんな1年です。(原田 博之)